九国プレ２０２０

国　　語

九州国際大学付属中学校

【注意事項】

1　開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。

2　開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。

3　試験時間は 50 分です。

4　解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。

5　問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。

6　答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。

受験番号		氏名	

※　これから示す一、二の文章については、まだ習っていない漢字は、ひらがなで表記したり、読みがなをふったりしています。なお、字数を指定している問題は、句読点やかぎかっこなども一字と数えます。

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

2種の生物間の関係は様々であるが、共生は片利共生、片害共生、共利共生をふくめて①牧歌的な関係であろう。競争関係になると、敗れた方は絶滅する恐れもあるので、かなりシビアな関係になるが、何といっても食う食われるの関係が最もシビアであることは間違いない。繁殖力がものすごく高く、多少食われてもすぐに回復できる昆虫やプランクトンなどの被食者は別として、繁殖力が高くない草食獣は肉食獣に簡単に食われてしまっては、すぐに絶滅してしまい、その結果肉食獣も餌がなくなってⓐコマることになるし、一方肉食獣もめったに草食獣を捕食できなければ、飢えて死んでしまうので、②肉食獣による狩りは完璧に上手くても、全く下手でもダメということになる。

最近「Nature」にライオンとシマウマ、チーターとインパラという2組の捕食―被食動物のペアを観察した論文が掲載された。チーターとインパラの運動能力は、速度、加速度、旋回能力のどれをとっても、ライオンとシマウマの③それよりも高かった。すぐそばにたまたまインパラが通りかかったといった偶然のⓑコウウン以外では、ライオンはインパラにねらいをつけて狩りをしても余りⓒセイコウしないということだ。一方、ライオンとシマウマあるいはチーターとインパラという捕食者と被食者の組み合わせにおいては、捕食者の方が筋繊維の力が20パーセント、加速能力が37パーセント、減速能力が72パーセント高いことがⓓハンメイしたという。

これが意味することは、この組み合わせでは被食者は捕食者に追いかけられてまっすぐに逃げていたのでは全力で逃げても、まず逃げ延びられないということである。それではライオンに目をつけられたシマウマ、あるいはチーターにねらわれたインパラはいつでも捕食されてしまうのかというと必ずしもそうではないという。④被食者の戦略は、低速の時の予測不能な動きにある。被食者たちは全力で逃げずに、捕食者が数歩後方に迫ると、予測不能な動きをして、捕食者から身をかわすという。捕食者による捕獲率は30パーセント程度である。3頭のうち2頭は捕食されないでA逃げおおせるのである。

被食者の予測不能な動きというのは、捕食回避の戦略として、草食獣だけでなく、他の動物でも一般的なようで、昆虫でも鳥に追われた蝶はランダムに動いて鳥の捕食を回避しようとする。蝶の飛ぶスピードは鳥のそれに比べて圧倒的に遅いが、飛ぶスピードが遅い方が、慣性の力が強く働かないだけ、ランダムに動きやすいのである。高速で蝶を追いかけている鳥は、蝶が直線的に逃げれば、蝶がどんなに速く飛んでも、捕まえるのは簡単である。鳥の方が飛ぶスピードははるかに速いからである。ところが、蝶が予測不能な動きをして、取りⓔソコねると、勢い余ってBあらぬ方向に進んでしまう。その間に蝶は逃げてしまうわけである。

⑤捕食者と被食者の関係はどちらも絶滅しないようにCいい塩梅にやっているようにみえる。しかし別に談合をして上手い具合にやっているわけではない。捕食者や被食者が圧倒的に有利になった関係はどちらかが（あるいはどちらも）絶滅して、消滅してしまっただけなのだと思う。捕食―被食関係は上手くできているわけではなく、上手くいった関係だけしか生き延びられなかったのだ。

（『生物学ものしり帖』　池田清彦　）

（注）
・シビア…非常にきびしいさま
・「Nature」…世界で特に権威のある学術雑誌のひとつ
・加速度…一定時間内の速度の変化
・ランダム…予測が不能な状態
・慣性…ものがその状態を保ち続けること
・談合…相談した上で決めること

問一　――ⓐ～ⓔのカタカナを、漢字に直しなさい。

問二　――A「逃げおおせる」、B「あらぬ方向」、C「いい塩梅」の本文中における意味として最も適切なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A「逃げおおせる」
ア　逃げ切ることができない　　イ　逃げながら大声を上げる　　ウ　見事に逃げ切れる　　エ　逃げる必要もない

B「あらぬ方向」
ア　予定していた方向　　イ　無関係な方向　　ウ　危険な方向　　エ　反対方向

C「いい塩梅」
ア　ちょうどよいさま　　イ　無意識であるさま　　ウ　でたらめであるさま　　エ　ささいなさま

問三　――①「牧歌的な関係」とありますが、「牧歌的」とは「のんびりした様子」を表しています。では、この「牧歌的な関係」と正反対の意味を表す表現を、本文中から六字で抜き出しなさい。

問四 ――②「肉食獣による狩りは完璧に上手くても、全く下手でもダメということになる」について、

(1)「完璧に上手」い場合はどうしてダメなのか、その理由を具体的に説明しなさい。

(2)「全く下手」な場合はどうしてダメになるのか、その理由を「～から。」につながるように、本文中から三十字で抜き出し、最初と最後の三字ずつを抜き出しなさい。

問五 ――③「それ」が指し示す言葉を本文中から四字で抜き出しなさい。

問六 ――④「被食者の戦略」とありますが、「蝶」の取る戦略を説明した次の文の［　　］にあてはまる言葉を、それぞれ指定された字数で本文中から書き抜きなさい。

蝶の飛ぶスピードは鳥に比べて［ア（六字）］が、［イ（四字）］が働かない分、鳥が接近してくると［ウ（七字）］をして身をかわすという戦略。

問七 ――⑤「捕食者と被食者の関係」について、筆者の考えとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 捕食者は、被食者が減りすぎないように、自然の仕組みの中でうまく調整しているのだ。

イ 被食者の数が圧倒的に多いため、捕食者が取り過ぎても問題ないようにうまくできているのだ。

ウ 増えすぎた種が発生した場合、その種は絶滅せざるを得なくして結果的にバランスが取れているのだ。

エ ある種が絶滅しても、それと同等の新たな種が発生することによってバランスが保たれているのだ。

問八 この文章の論の進め方として、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 客観的なデータにもとづき論を展開することで、筆者の意見に説得力をもたせている。

イ 疑問文を提示することで、読者が問題意識をもって読み進められるように工夫している。

ウ 研究分野である生物学の専門用語を多用することで、格調の高い文章に仕上げている。

エ たとえなどの表現法を使用することで、読者がイメージしやすいよう工夫している。

二　次にあげる文章は『鳩を飛ばす日』（作　ねじめ正一）という作品の一部分で、一部省略しています。主人公の片岡聡は小学四年生。片岡家は、和菓子店「ふく月」を営んでいる。ある日、いとこの須賀江みつ子（聡の二歳下）が、実の母親と兄弟とで暮らしている高岡（地名）から、片岡家に預けられ生活をともにしている。みつ子の実の母親が小野塚さんと再婚したことをきっかけに、片岡家のみんなは、みつ子が高岡へ戻りたいと言い出さないか気が気でない様子である。以下の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

月に二度の定休日の夕方であった。母親は用足しに出かけて留守で、父親は茶の間に寝転がってⓐ雑誌の囲碁の欄をながめていた。

よその店の下請けを始めてから、ふく月は定休日にも店を閉めるだけで、父親の仕事は休みではない。朝は七時に起きて、九時までよそへ卸す分のどら焼きをこしらえ、できたどら焼きを自転車の荷台にのせて配達してから、午後は餡を煮る。

もっとも作るのはどら焼きだけで、店売りの生菓子は休みだったから、ⓑ作業は四時には終わった。それから寝るまでが、月に二度だけの父親の自由になる時間なのだ。そのⓒ貴重な時間を、父親はいつも寝転がって過ごした。と言っても、眠っているわけではない。［　(1)　］天井をながめていたり、今日のように囲碁の欄を広げてみたりしながら、ただ時間をAやり過ごしているのだ。

そんな父親を見かねて、

「たまにはパチンコにでも行ってきたら」と、母親が勧めることもあった。

「寝転がってるばかりじゃ、体は休まっても気晴らしにはならないでしょうに」

「めんどうくさいな」

「じゃあ釣り堀は？」

「あんなもん、子供だましだ。縁日の金魚すくいみたいなもんだ」（中略）

このあたりで、父親は［　(2)　］寝返りを打ってそっぽを向いてしまう。母親はしかたなく、ため息をついてあきらめるのである。

今日も母親は、父親にしつこく気晴らしを勧めていた。駅前に碁会所ができたから行ってみてはどうか、というのだ。だが父親は「うん」と言わず、B奥歯をかみしめたような顔つきで天井をにらむばかりだった。

父親のいる茶の間から逃げだそうと、聡が尻を浮かせたときである。かぎのかかった店のガラス戸がガタンと鳴って、

「夕刊でーす」
新聞配達が声をかけるのが聞こえた。折紙を折っていたみつ子が立ち上がって、ガラス戸のすき間に差し込まれた新聞を取ってきた。
「はい、お父さん」
ごくさりげない言い方だった。あんまりさりげなかったので、聡も一瞬聞き流してしまったぐらいだった。みつ子は寝転がった父親のわきに新聞を置くと、また折紙にもどってつづきを折りはじめた。
父親がゆっくりと身を起こしてみつ子を見つめた。みつ子は注意深く指先を動かしては折りつづけていた。ちゃぶ台の上には出来上がった鶴が五、六羽、翼を広げ、鋭い首をすっくり立てて並んでいる。小学校の同級生が腎臓病で入院したので、みんなで千羽鶴を贈ることになったのである。
「みつ子」
父親が言った。上ずった声だった。
「え」
みつ子が顔を上げずに返事した。
「いや。……ありがとうよ」
父親はそれ以上言わずにガサガサと新聞を広げる。ⓓ刷りたてのインクの匂いがした。新聞に隠れて父親の顔は見えなかった。聡は手を伸ばして折紙を一枚取った。
「何羽折るんだ」
「二十羽。今日中に折って加代子ちゃんちへ届けなきゃいけないの。お見舞いは明日だから」
やけに早口だった。ほほも耳も赤らんでいた。では自分でも気がついているのだ。「お父さん」という言葉が (3) 口をついて出たことに、自分でもビックリしているのだ。（中略）
父親が新聞のかげでせき払いをした。うれしいのだ。みつ子を手伝って鶴を折りながら、聡もうれしかった。たまの休みにも寝転がるだけで、好きなパチンコさえ自分に禁じている父親に、みつ子の今の一言ほどⓔ効き目のある気晴らしはなかった。――いや、それは気晴らし以上だった。①もっと大事な、もっと意味のあることだった。
聡が手伝ったせいで、三十分ほどして鶴は二十羽になった。みつ子が出来上がった鶴を届けに出ていくとすぐ、父親がくすぐったいような顔で「おい、聡」と言った。
「お前、聞いたか」

「聞いた」
「みつ子がお父さんって言ったな」
「うん」
「たしかに言ってたよな。お父さんって言ったよな」
「うん、言ってた」
父親は確かめずにはいられないらしい。聡に向かって何度も同じ質問をC繰り返したあげく、
「どうも何だな」
座り直してかゆくもない頭をかいた。
「ああっさり言われると、かえって落ち着かないもんだな。なあ聡」
「そう」
「みつ子のやつ、まぐれかな。はずみで言っちまったのかな」
「はずみって言えばはずみかもしれないね。②みつ子も照れてたもん」
「すると、もう言わないな。かえって言わなくなるだろうな」
「そうとも限らないよ。一度言っちゃったら、あとは言いやすくなるってこともあるし」
「そうか。聡はそう思うか」
「思うよ。みつ子って、そういうやつだよ」
うれしがらせているわけではない。③聡は本当にそう思っていた。「お父さん」という言葉は、だいぶ前からみつ子の心の中にあったに違いないのだ。「おじちゃん」より「お父さん」のほうがしっくりくる気持ちに、みつ子はだいぶ前からなっていたのだ。
それが[(3)]出てしまった。
出てしまった以上、「お父さん」から「おじちゃん」に後もどりすることはない、と聡は思う。今のみつ子にとって「お父さん」とは父親のことで、みつ子の実の父親は「死んだお父さん」なのである。

「そう言えば、みつ子はお前のことも聡兄ちゃんって呼んでるな。あれはいつごろからかな」
「夏休みのころからだよ。でも、聡ちゃんって言うこともあるよ」
「お前はどっちでもいいさ。ただの兄ちゃんなんだから」
父親が［　(4)　］笑った。
「じつはな。ここだけの話だけど、おれはみつ子を高岡に帰したほうがいいんじゃないかと思ってたんだよ。須賀江のほうの事情も変わったしな」
「でも、お母さんは反対だよ」
「わかってるさ。だけどみつ子が帰りたいんなら、そうしてやるのがいちばんなんだから」
小野塚さんと同じ言葉だった。父親はたばこに火をつけると、まじめな顔になって聡を見た。
「子供の一年は長いからな」
「どういうこと」
「だから、この一年でみつ子が変わったってことさ。④せつないもんだな、子供ってのは」
「みつ子がせつないの」
「いや、周りがせつないのさ。おれやお前や、須賀江や母さんたちがな」
父親の言葉は、聡には半分もわからなかった。

（注）・碁会所：席料を払い有料で碁を打つことができる場所

問一　――ⓐ～ⓔの漢字の読みをひらがなに直しなさい。

問二　～～～A「やり過ごしている」、B「奥歯をかみしめたような」、C「繰り返したあげく」の本文中のそれぞれの意味として、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A「やり過ごしている」
ア　むだに過ごす　　イ　特別なことをせず放っておく　　ウ　苦しみにたえながら過ごす　　エ　度をこえて物事を行う

B「奥歯をかみしめたような」
ア　じっとがまんしているさま　　イ　感情を押し殺しているさま　　ウ　無関心になるさま　　エ　悲しみにたえているさま

C「繰り返したあげく」
ア　繰り返すとすぐに　　イ　繰り返しながら　　ウ　繰り返しもそこそこに　　エ　繰り返した結果

問三　[(1)]～[(4)]にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ番号には同じものが入ります。

ア　するりと　　イ　ぷいと　　ウ　ぼんやりと　　エ　はればれと

問四　――①「もっと大事な、もっと意味のあることだった」とありますが、「父親」にとっては、どういうことがどういうことに比べ、大事な意味あることと言っているのか。次の形式に合わせて答えなさい。

父親にとって、[(1)]ことは、[(2)]ことよりも大切で意味あることだということ。

問五　――②「みつ子も照れてたもん」とありますが、みつ子が照れている様子を表現しているひと続きの二文を、本文中から抜き出し、最初と最後の三字ずつを書きなさい。

問六 ――③「聡は本当にそう思っていた」について

(1)「そう思っていた」とは、どのように思っていたのか。そのことを説明した次の文の［　　］にあてはまる言葉を、それぞれ指定された字数で本文中から書き抜きなさい。

みつ子がはずみで「お父ちゃん」と言ったので、もう二度と［ア（六字）］と考えている父親に対し、聡は、一度言ってしまえばあとは［イ（七字）］と思っている。

(2)「そう思っていた」のはなぜか。その理由を本文中の言葉を使い、五十字程度で書きなさい。

問七 ――④「せつないもんだな、子供ってのは」とありますが、「父親」は、どういう意味で「せつない」と言っているのか。その説明として、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア みつ子が一年間暮らして親しくなった片岡家と、もともと生まれ育った実家との間で愛情の板ばさみにあい、どうしていいか分からなくなるという意味。

イ みつ子が一年で大きく変化したために、以前のみつ子だと思っていると、周囲の人々がやり場のないつらい思いを抱いてしまうことになるという意味。

ウ 一年かけてとても親しくなったみつ子の小学校の友達が、みつ子がまた高岡に引っ越すことになるとさびしい思いをしてしまうことになるという意味。

エ みつ子がこの一年で大きく成長したことによって自立し、だれにもたよることがなくなることで、周囲の人がものさびしい思いをしてしまうという意味。

問八 この文章の表現の特徴について、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア「鶴が鋭い首をすっくり立てている」という表現からは、折っているみつ子のしっかりしなければという思いがこもっており、みつ子の成長ぶりが読み取れるよう工夫されている。

イ 父親は、もう一度みつ子が「お父さん」と呼んでくれるかと聡に尋ねたところ、聡が父親を喜ばせるために「あとは言いやすくなる」と答えるなど、父親を気づかっている様子がよく分かる。

ウ 母親の「ため息をついて」や「しつこく気晴らしを勧めていた」という表現から、父親とのすれちがいがはっきりと示されており、後で二人に何かが起こることを暗示している。

エ 父親の「上ずった声」や「くすぐったいような顔」という表現から、みつ子に「お父さん」と呼ばれたことで、こみ上げる喜びを抑えきれない様子がうまく表現されている。

三　次の問いに答えなさい。

問一　次のことわざと似た意味のことわざを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 月とすっぽん
ア　かえるの子はかえる
イ　とんびが鷹を生む
ウ　ちょうちんに釣り鐘
エ　どんぐりの背比べ

② 論より証拠
ア　百聞は一見にしかず
イ　目は口ほどにものを言う
ウ　うそも方便
エ　木を見て森を見ず

③ のれんに腕押し
ア　鬼に金棒
イ　豚に真珠
ウ　寝耳に水
エ　ぬかにくぎ

問二　次の□に同じ漢字を入れると四字熟語ができます。□に入れるべき漢字一字をそれぞれ答えなさい。

① 大雨で不通になっていた鉄道の復旧作業が□眠□休で行われている。
② □給□足の生活を目指して、庭で野菜を育てている。
③ 祖父の病状は□進□退をくり返していたが、ようやく回復してきた。

問三　次のカタカナの漢字と同じ漢字のものを記号で選び、さらにその漢字一字を書きなさい。

① チームが決勝にシン出した。
ア　四月にシン体測定があった。
イ　彼はいつもシン実しか言わない。
ウ　宇宙からの通シンが途絶えた。
エ　マイバッグの利用を推シンしている。

② 日本代表の最終選コウに残った。
ア　私のおじはコウ古学者だ。
イ　テレビ番組のコウ開収録がある。
ウ　留学生とのコウ流会に参加する。
エ　姉はとても親コウ行である。

③ この十年で町は発テンをとげた。
ア　ロープウェーでテン望台までのぼった。
イ　今日の福岡は晴テンにめぐまれた。
ウ　マット運動で前テンの練習をした。
エ　国語辞テンで意味を調べる。

④ 話を聞いてもらい不安が解ショウした。
ア　学校でショウ火訓練を体験した。
イ　品質が保ショウされている。
ウ　いくつかの手順をショウ略した。
エ　写真を縮ショウしてコピーした。